

2018年07月28日現在

市民と考える吉田寮再生 100年プロジェクト

吉田寮の再生の提案募集

募集要項



現存する日本最古の木造学生寮・吉田寮に蓄積された有形無形の資産を保全継承する方法のアイデアを世界から募り、幅広い参加を得ながらオープンな議論を進めます。

◆吉田寮の歴史と特徴

吉田寮の「現棟」は、1913年（大正2年）に京都帝国大学寄宿舍として建てられた、現存する日本最古の木造学生寮です。2015年に全面補修された「食堂」と同年に建てられた「新棟」と合わせ、約200人が住んでいます。吉田寮では100年以上もの間、学生の自主管理によって営まれ、ただの生活の場に留まらず学生同士の交流・対話が生まれる場（人間成長の機能）として、あるいは、学生が共同生活を営むうえで企画を計画・組織・実行し、失敗と成功を得られる場（教育的機能）としての多面的な機能を持っています。

さらに、吉田寮は文化発信の拠点としての機能（文化的機能）も持っています。「吉田寮食堂」（イベントスペース）では、定期的にライブイベントや演劇、講演、美術展、酒場企画などが開催されることで、寮の外からの学生や地域との交流が生まれ、寮生同士との交流も合わせて吉田寮独自の文化が形成されてきています。ほかに、現棟にある中庭の豊かな自然環境は周辺の生態系を支えるとともに、吉田山と同等あるいはそれ以上の壮観を形成しています。

◆吉田寮がなくなる？

しかし、築105年を迎え、吉田寮現棟は老朽化による災害への弱さが心配されており、京都大学は2017年12月、「すべての吉田寮生は2018年9月末までに現棟・新棟から退舎すること」を吉田寮生に言い渡しました。寮生が退去した後の吉田寮をどのように扱うのか、そこでは具体的な方針は明らかにされていません。

◆「市民と考える吉田寮再生100年プロジェクト」の発足

「このままでは2018年10月以降吉田寮がなくなってしまうかもしれない」「吉田寮が長年育んできた、この木造寮に根付いた独自の歴史や文化は絶たれるかもしれない」と私たちは懸念し、吉田寮を大切に思う吉田寮生を中心とする有志で、京都大学吉田寮の建物を保存活用することを念頭に置き、これまで蓄積された有形・無形の文化的な資産を未来に継承する再生の方法を探るため「市民と考える吉田寮再生100年プロジェクト」を立ち上げました。

◆吉田寮を保存継承する意義

とりわけ、古い建物を壊して新しい建物を建てるという「スクラップ・アンド・ビルド」から、古い建物をうまく活用しようという「ストック活用」へと建築物を取り巻く考え方が大きく変わってきている中、ソフトハード両面で歴史や文化の蓄積が大きい吉田寮において保全・活用・継承の方法を考えることは、全国でも多くの知見を提供できる有意義なことであり、智の集積地である大学の中にある建物だからこそその使命もあると考えられます。

◆本プロジェクトのめざす未来

本プロジェクトでは、吉田寮の機能を再評価し、優れた点を残しつつ、これまでの吉田寮が地域や社会との交流の中でより良く変わりながらも残ってきたということも考え、新たな機能を加えてより一層の吉田寮については京都大学の発展を目指し、吉田寮食堂・吉田寮新棟を合わせた未来につなげる吉田寮現棟の再生を目指すアイデアを募集します。

いただいたアイデアをもとに、吉田寮現棟の保全・継承に向けて、広くオープンな話し合いを展開していくことで、あくまで学生寮でありつつも、より公共性を兼ね備えたセミパブリックな吉田寮を

目指したいと考えています。

02 提案内容

今回の提案募集では、再生デザイン部門（建築設計、空間設計など）と継承プログラム部門（枠にとられないアイデアや表現作品）の2部門で応募を戴きます。

●再生デザイン部門

建築空間の再生デザインとして、以下のテーマを主な観点として、提案を受け付けます。

- 1) 国内最古級の木造寄宿舍である吉田寮現棟の既存の価値を尊重し保存活用しながら、保存部分と調和する京都の景観としてふさわしい建て替え及びリノベーションのデザインについて。
- 2) 「自由と対話」を重視した京大らしい方法で、学生への教育的効果を高める空間デザインについて。
- 3) 寮としての用途を基本としつつ、国籍や言語を問わない国際交流の場として、また学生や市民に開かれた交流の場としての空間デザイン・建築用途のあり方について。
- 4) 木造寄宿舍としての外観・構造をなるべく損なわない、ハード面での地震や火災への安全対策について。

●継承プログラム部門

以下のテーマのうちいずれかを含む内容で、枠にとられない、自由な発想でのアイデアや表現作品を募集します。

※表現方法は問いません（イラスト、写真、漫画、紙芝居、小説、音楽、映像作品等自由な表現方法で）

- 1) 後世に伝えたい吉田寮の歴史や記憶、風景などについて。
- 2) 吉田寮の残すべき価値と、さらなる発展のために提案できる価値について。
- 3) 「自由と対話」を大切にしつつ、より社会に開いた吉田寮の運営のあり方について。
- 4) 吉田寮で過ごした思い出や吉田寮を訪れて感じ、大切だと思ったことについて。

03 応募資格

応募資格は不問です。どなたでも応募いただけます。

04 提出物

- ① 「再生デザイン部門」について、提案を A1 用紙 1 枚にまとめ、必要があればコンセプト等を A4 用紙 1~4 枚にまとめ、あわせてこれらの pdf データも合わせて提出してください。なお、スケッチやカラージュなどの形での提出も可とします。
- ② 「継承プログラム部門」について、提出形式は不問です。

【締め切り】

2018年9月13日(木) 必着

※応募いただいた作品の著作権は制作者に帰属します。ただし作品の展示、冊子作成および web 掲載等の使用権は、主催者が持つものとします

※応募者の氏名及び概要については公表します。ただしペンネーム等での発表を希望される場合は、その旨を記載ください。

※今回ご提供いただいた個人情報については、個人情報保護法を遵守し、事務局で適切に管理致します。今回の提案募集に関するご連絡および作品の PR 以外の目的に利用することはございません。

05 展示会・意見交換会の開催と公表方法

いただいた提案・作品の展示会を開催する予定です。また、その展示期間中の一日を使い、集まった提案・作品の中から特に重要と思われるものを題材にした意見交換会を開催予定です。コメンテーターと吉田寮生及び市民の各々の視点から意見を述べ合い、吉田寮の既存の価値を確認しさらに深め、あるいは集まった提案・作品から吉田寮の新たな価値を見出す場となります。

また、冊子作製や web 掲載等、幅広く多くの方にご覧いただくことも予定しています。商業誌などでの公表についても、出版各社に打診中です。

(180728 追記)「建築ジャーナル」さんの 2018 年 11 月号 (予定) に掲載が決定しました。

06 賞

展示会でいただいたコメントや、意見交換会での提案者コメンテーターおよび来場者の意見交換を基に、コメンテーターおよび来場者が良いと思った提案にシールを貼り、最もシールが多かった数点の提案の提案者を表彰します。

07 スケジュール

① 提案応募のエントリー

エントリーとは、作品応募に先立って、個人・団体名などの情報を登録することです。実行委員会で応募者の数を把握するため、エントリーはお早めをお願いしております。

(なお、作品提出締め切りは 9 月 13 日 (必着) ですのでご注意ください。)

エントリー方法: 下記記載の当会 HP からエントリーフォームに沿って必要事項 (個人・団体名、メールアドレスなど) を入力してください。実行委員会からエントリー承認の返信が送信された時点で正式にエントリーが成立します。

※7月9日版募集要項では「エントリー一次締め切り: 7月27日、エントリー最終締め切り: 9月

13日」としておりましたが、「一次締め切りの時点で何らかの素案を提出する必要があるのではないか」という誤解を招く可能性があるため、上記のように改めました。7月9日版以前の版を見ていただいた方にはご迷惑をおかけしました。

② 学習見学会等の開催

2018年 **7月28日(土)、7月29日(日)、**

8月4日(土)、8月5日(日) (土曜日の参加を推奨)

エントリーされた方向けの学習見学会を開催いたします。

タイムテーブル (予定)

16時～19時 吉田寮ツアー (吉田寮の建物をめぐりながら、過去と現在の吉田寮生の生活の様子を説明)

座学 (吉田寮の自治運営、過去の大学との交渉の経緯などを説明)

19時～ 「食堂酒場」 毎週土曜日に開店する、寮生運営の酒場に参加していただき、吉田寮生や寮外の方との交流を通して、吉田寮での人的交流の感覚をつかんでいただけます。(参加任意・途中退席可)

寮生自ら吉田寮を案内し、建物の魅力や自主管理に基づく共同生活の様子、さまざまな動物が生活する緑豊かな中庭などを見学いただけます。応募にあたって参加は必須ではありませんが、吉田寮を深く知ることができる機会となりますので、ぜひご参加ください。

これ以外の日程においても吉田寮は公開しております。(ただし、その場合は、事前に下記記載のメールアドレスまでご連絡ください。当実行委員が可能な範囲で対応いたします)

③ 提案の提出

2018年 **9月13日(木)<必着>**

※持参される場合は、「吉田寮内、^{はんざわ}繁澤、^{きゆうな}喜友名または^{ほんぼ}本母」まで (17:00 必着)

④ 展示会の開催

2018年 **9月18日(火)～24日(月)**

吉田寮内もしくは周辺施設で展示会を開催予定です。会場や入場時間等の詳細は7月下旬ごろにメールや下記 Web サイトにてお知らせいたします。

⑤ 意見交換会の開催

2018年 **9月23日(日)**

吉田寮内もしくは周辺施設で4時間程度の意見交換会を開催し表彰作品を決定します。会場や開始時刻等の詳細は7月下旬ごろにメールや web サイトにてお知らせいたします。

08 コメントーター

(敬称略・五十音順)

荒木 正亘 (アラキ工務店取締役会長、全京都建築協同組合顧問)

石田潤一郎 (京都工芸繊維大学名誉教授)

岩井 清 (岩井木材株式会社代表取締役・木材アドバイザー)

魚谷 繁礼 (都市居住推進研究会)

ウスビ・サコ (京都精華大学 学長)

尾池 和夫 (京都造形芸術大学学長)

大島 祥子 (都市居住推進研究会)

大場 修 (京都府立大学教授)

小田研太郎 (タコとケンタロー〈吉田寮近隣のお店〉店主)

高田 光雄 (京都美術工芸大学教授)

谷口菜穂子 (写真家)

中嶋 節子 (京都大学教授)

西澤 英和 (関西大学教授)

馬場 正尊 (Open A 代表取締役、東京 R 不動産 ディレクター)

広原 盛明 (吉田寮卒寮、京都府立大学元学長)

山根 芳洋 (七灯社建築研究所主宰・日本建築学会正会員)

この他の方にも打診中です。追って web サイト上で発表します。

09 配付資料

参考資料は下記公式 HP に公開しております。

応募者向けにはさらに詳しい資料を公開する予定です。

10 問合せ・提出先

Email : yoshidaryo100nen@gmail.com

公式 HP : <http://yoshidaryo100nen.deci.jp/2018/>

郵送先住所：〒606-8315 京都府京都市左京区吉田近衛町 69 番地 京都大学吉田寮

※問い合わせいただいた内容とその回答につきましては、個人情報に配慮の上 web サイトで公開します。

主催 「市民と考える吉田寮再生 100 年プロジェクト」実行委員会

公式 HP : <http://yoshidaryo100nen.deci.jp/2018/>

【運営委員】(五十音順)

喜友名^{きゆうな}正樹 (京都大学 学部生・吉田寮寮生)

繁澤^{はんざわ} 良介 (京都大学 学部生・吉田寮寮生)

本母^{ほんぼ} 将輝 (京都大学 学部生・吉田寮寮生)

【運営協力】(敬称略・五十音順)

大島 祥子 (都市居住推進研究会)

河野 康治 (京都市文化財マネージャー)

平塚 桂 (ぼむ企画)

後援 吉田寮自治会

「21 世紀に吉田寮を活かす元寮生の会」理事一同